

VOL.171

農協からのお便り

6
2022

グリーン
Green
地域と農業をむすぶJA広報誌

今月の表紙

密苗作業を用いて…
田植え作業始まる

Topics

- ・ 田植え体験を実施
- ・ 青空教室を開催
- ・ 農業・食料ほんとうの話
他

豊里地区

喜多 豊さん



JA 上川中央

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

晴天にも恵まれ、楽しく田植え…

上川小学5年生が田植え体験

5/24

食農教育



菊水地区の辰口眞さんの圃場で上川小学校5年生の児童18名が田植え体験を行いました。天気の影響により2度延期になりましたが、当日は天気に恵まれ、無事開催する事が出来ました。

道具の説明を受け、児童たちは手で田植え作業を行い、延期の影響により乗車体験は出来ませんでした。田植機やトラクターの見学を行いました。

児童たちは裸足になり、泥の中に入り、「泥の感触が面白い！」や「水の中の方が温かい！」など言い、始終笑顔が絶えず楽しんで田植え体験を行いました。

今後の農業体験は、圃場の草刈り、実りの稲刈り、そして最後に餅つき体験が予定されています。

今年のお米も、児童たちの元気と一緒に立派な稲に育つことを期待しています。



乳牛の脂質改良と経営改善を目的に…

搾乳立会情報交換会を実施

5/9

上川支所



上川町内の酪農生産者で組織される上川町乳牛検定組合は、上川支所大会議室で搾乳立会情報交換会を開催しました。

乳牛検定組合は乳牛の脂質改良と経営改善を目的とした組織で、今回の情報交換会では上川農業改良普及センターの小柴主査・田村主査と野原専門普及指導員を講師として招き、町内での搾乳作業を動画などで検証しながら、各牧場の搾乳時間や手順状況の説明をもらい、適正管理の情報提供をしていただきました。

参加された生産者の方々は、長年搾乳作業をしているベテランの方や、酪農を始めて間もない新人の方など幅広く参加され、牧場間で普段なかなか聞けない様々な意見を出し合う良い機会となり、みなさん熱心に耳を傾けられていました。

葉令別における適正管理について… 水稲青空教室を開催

5/2

愛別地区



厚生地区の（農）伏古生産組合さんの水稲育苗ハウスにおいて、水稲育苗に係る青空教室が20名の生産者の方々に参加いただき開催されました。

上川農業改良普及センターの桂川専門主任・水尾普及員を講師に招き、「今後の育苗と移植後の管理」と題し、健苗の育成に向けた適期播種及び葉令別における適正管理についてや移植後の初期成育促進に向けた取組について、更には初期茎数確保の重要性について説明があり、参加した生産者は熱心に耳を傾けていました。

今回の青空教室資料は農協ホームページで閲覧できますので是非ご覧ください！



育苗管理・移植後の管理について… 水稲青空教室を開催

5/6

上川地区



東雲地区の小西優二さんの育苗ハウスにおいて、水稲青空教室に33名の生産者の方々に参加いただき開催されました。

上川農業改良普及センターより、小柴主査他3名を講師に招き、育苗管理・移植後の管理についての説明がありました。また、クミアイ化学工業(株)の上田様より初期除草剤についての使用ポイント等について指導があり、参加者された生産者は真剣に耳を傾けていました。



「輸出振興とデジタル化が農政の柱」というのは、誤りである

ウクライナ危機が勃発し、農産物価格、生産資材価格の高騰が増幅されている。「食料を自給できない人たちは奴隷である」とキユーバの革命家ホセ・マルティは述べ、高村光太郎は「食うものだけは自給したい。個人でも、国家でも、これなくして真の独立はない」と言った。

今こそ、「食を握られることは国民の命を握られ、国の独立を失うこと」だと肝に銘じて、国家安全保障確立戦略の中心を担う農林水産業政策の再構築、すなわち、自分たちの命、環境、地域、国土を守る安全な食料を確保するために、国民それぞれが、どう自分の負担をして支えていくか、というビジョンと、そのための包括的な政策体系の構築が求められているのである。

食料危機が迫るのに「食料安全保障」が欠落

しかるに、岸田総理の施政方針演説では「経済安全保障」が語られたが、「食料安全保障」についての言及はなく、農業政策の目玉は輸出振興とデジタル化のように言及された。これだけ食料や生産資材の高騰、中国などにたいする「買い負け」が顕著になってきて、国民の食料確保や国内農業生産の継続に不安が高まっている今、前面に出てくるのが輸出振興とデジタル化というのは、政府の危機認識力が欠如していると言わざるをえない。

輸出振興を否定するわけではないが、食料自給率が世界的にもきわめて低い37%という日本にとって、食料危機が迫っているときに、まずやるべきは輸出振興でなく、国内生



すぎき・のぶひろ

1958年三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省入省。農業総合研究所研究交流科長、九州大学教授などを経て、2006年より現職。専門は農業経済学、国際貿易論。『農業消滅 農政の失敗がまねく国家存亡の危機』（平凡社新書）、『協同組合と農業経済 共生システムの経済理論』（東京大学出版会）ほか著書多数。

産確保に全力を挙げることであろう。

しかも、農産物輸出が1兆円に達したというのは粉飾で、ほんとうに国産の農産物といえる輸出は1000億円もないとの試算もある（ウイスキーやコーヒ、チョコレート、みそ・しょうゆなど輸入原料に依存した加工食品が多く、国内農業生産の強化につながっていない）。

デジタル化も否定するわけではないが、それですべてが解決するかのような夢物語で氣勢を上げることには、どれだけの意味があるのだろうか。

施政方針演説の基になったのは、自民党が令和2年12月16日にまとめた「『経済安全保障戦略』の策定に向けて」という提言である。この提言では「食料安全保障の強化」とい

う項目が立てられてきているが、「食料自給率の向上」という言葉は、ひと言も出てこない。

お金を出せば買えるという論理はすでに破綻している

結局は食料を巡る国際経済の中でどのように調達するかを考えているにすぎないように思われる。詰まるところ、お金を出せば買えるのだから、その準備をしておけばよい。それがいちばん安くて効率的な安全保障だという考え方である。しかし、今まさに、それができなくなってきたことが白日の下にさらされたのである。

貿易自由化を進めて食料は輸入に頼るのが「経済安全保障」であるかのような議論には、根幹となる長期的・総合的視点が欠落している。国内の食料生産を維持することは、短期的には輸入農産物より高コストであっても、「お金を出してでも食料が買えない」不測の事態のコストを考慮すれば、国内生産を維持するほうが長期的なコストは低いのである。

そして、狭い視野の経済効率だけで市場競争に任せることは、人の命や健康に関わる安全性のためのコストが切り詰められてしまうという重大な危険をもたらす。とくに食料自

給率が37%にまで低下して、食料の量的確保についての安全保障が崩れてしまうと、安全性に不安があったとしても輸入に頼らざるをえなくなる。つまり、量と同時に質の安全保障も崩される事態を招くのである。これこそが、われわれがいま直面している事態であるにも関わらず、食料自給率向上がまったく語られないのは、「経済安全保障」と言いながら「食料安全保障」の本質が欠落した的外れで危険な議論であり、国民の生活や命を守るという「安全保障」になりえていない。

世界に目を転ずると、中国などの新興国の食料需要の想定以上の伸びが明らかになってきている。たとえば、中国はすでに大豆を1億300万t輸入している。日本は大豆消費量の94%を輸入しているとはいえ、中国の「端数」の300万tにすぎない。中国がもう少し買うと言えば、輸出国は日本に大豆を売ってくれなくなるかもしれない。いまや、中国などのほうが高い価格で大量に買う力がある。現に、輸入大豆価格と国産価格とは接近してきている。コンテナ船も日本経由を敬遠しつつあり、日本に運んでもらうための海上運賃が高騰している。

それでも「コメを作るな、生乳を搾るな」という認識…

さらに「異常」気象が「通常」気象になり、世界的に供給が不安定さを増しており、需給逼迫要因が高まっている。原油高がその代替品となる穀物のバイオ燃料需要も押し上げ、暴騰を増幅する。国際紛争などの不測の事態は、一気に状況を悪化させるが、今まさにそれが起こってしまった。

食料危機のリスクがまちがいに高まっているときに、コメや牛乳や砂糖が余っているから減産しろと国は要請しているが、日本にまともに食料や生産資材が入ってこなくなる可能性が高まっているときに、どうして減産なのか。そもそも、30年近くも日本人の所得だけが減少し続け、食料の消費量は毎年減少が続いていた中、コロナ禍で、さらに大きく減少した。食べたくても食べられない人が増えているのであり、足りていないのだ。

増産をして人道支援し、消費者を救い、それによって在庫が減り、生産者も救われ、かつ、迫り来る食料危機にも備えることこそが求められている。国産振興のための思いきった財政出動が必要なのである。

あなたの街の暑さ指数(WBGT)をチェックしよう!



こちらから
チェック
ひと涼み
hitosuzumi.jp



JAへの就職希望者100%就職 (令和3年度実績) 令和5年度第1回学生募集

- 定員60名 ●男女共学 ●1カ年、全寮制
- 満24歳未満(令和4年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:9月24日・25日
- 願書受付:7月15日~8月31日消印有効
- 学校見学もできます

お問合せ
資料請求

JAグループ職員養成校

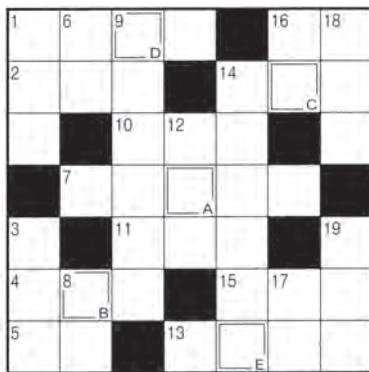


一般財団法人
北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町 43-1

TEL0120-918-417 【JAカレッジ】で検索

パズル? 頭の体操



↓ タテのカギ

- 1人用がシングルなら2人用は
- 作物のテンサイは、——ダイコンとも呼びます
- かまぼこの土台にします
- 唇に差す物
- 最高学府に通う人々
- 2022の百の——の数字は0です
- 賭博師、ばくち打ちのこと
- ビールやジャムを詰めます
- サラダ、——サンド、——マヨネーズ
- 大福とかようかんとか。水無月(みなづき)というもあります
- いろいろな具をトルティーヤで挟んで作ります

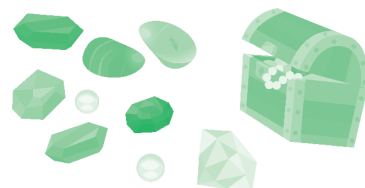
→ ヨコのカギ

- 虹の七色の一つ。赤の隣です
- 役者が立つ所
- アメリカに行くことを漢字で表すと
- とげに覆われた海の幸
- 「佐藤錦」「ナポレオン」などの品種があります
- 出番前の出演者が支度をする場所
- ジョン・ウェインやゲイリー・クーパーは——劇で活躍しました
- 賞与とも呼ばれます
- 多くの星が集まってできています
- おなかの上で貝を割る動物
- 生産量日本一は長崎県。特に茂木の物が知られている果物

先月号の答え



解答	A	B	C	D	E
	エ	メ	ラ	ル	ド



JAのあゆみ 5月

- 2日 水稲青空教室(愛別)
- 6日 水稲青空教室(上川)
- 9日 経営所得安定対策交付金(愛別)10日(乳根組合 搾乳立会情報交換会)
- 12日 経営所得安定対策交付金(上川)
- 24日 上川小学校田植え体験
- 27日 第4回定例理事会



組合員のうごき

(令和4年4月21日現在)

正組合員戸数	311戸
総組合員数	2,219名
正組合員数	479名
うち団体数	33団体
准組合員数	1,742名
うち団体数	58団体

第3回定例理事会

令和4年4月21日開催

■報告事項

1 組合員の脱退について

4件の脱退について報告した。

2 令和4年度クミカン資金供給限度額及び貸越極度額の設定について

組合員から提出された営農計画書に基づき、供給限度額・貸越極度額などの集計内容について報告した。

3 共済事業目標の設定について

令和4年度の共済事業目標について報告した。

4 農家経済対策委員会の報告について

3月30日開催の協議概要について報告した。

5 大口信用供与に係る経営状況について

13件の大口信用供与先の経営状況について報告した。

6 令和3年度コンプライアンスプログラムに係る実施報告について

コンプライアンスプログラムに基づく、実施内容について報告した。

■議事

1 出資持分の相続並びに譲渡について

3件の相続並びに譲渡について承認された。

2 組合員の加入報告並びに組合員資格について

1件の加入について承認された。

3 令和4年度余剰金の運用について

余剰金の運用計画・方針について承認された。

4 令和4年度貸付金利率の最高限度額並びに信用供与等の限度額の設定について

基準に基づき設定された各限度額について承認された。

5 令和4年度理事に対するクミカン資金供給限度額及び貸越極度額の設定について

利益相反行為により、該当理事退席のもと協議し、承認された。

6 令和4年度対策対象農家の選定について

3名の組合員が選定され、承認された。

7 固定化貸出債権の回収状況及び対処方針について

令和3年度の回収状況を報告し、令和4年度の対処方針について承認された。

8 購買未収金の回収状況及び今後の対処方針について

回収状況の報告並びに回収方針について承認された。

9 規程の一部改正について

1件の一部改正について承認された。

10 資金の融資について

1件の融資について承認された。

11 理事に対する長期資金の融資について

2名の理事に対する融資案件について、該当理事退席のもと、審議され承認された。

12 令和4年度コンプライアンスプログラムの設定について

今年度のコンプライアンスプログラムについて協議し、承認された。

13 酪農畜産支援助定事業利用申込の認定及び利用額設定について

1件の申込みについて承認された。

クールビズの実施について

JAでは、夏の省エネルギー対策として今年も「クールビズ」を実施することといたしました。そのため、職員はノーネクタイ・ノージャケット等の軽装とさせていただきますので何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○実施期間 5月16日～10月10日(予定)

お知らせ

小農具展示販売会開催について

今年の農作業の準備は大丈夫ですか？
各メーカーの刈払機・ミスト機などの小農具の展示販売を開催します。
皆様のお越しをお待ちしています！！



《 本 所 》

日 時 6月14日(火) 9時～16時
場 所 愛別農機センター前

《 支 所 》

日 時 6月15日(水) 9時～16時
場 所 上川資材店舗前



納豆とナガイモの
チャーハン

今日の
オススメ

材料(2人分)

- 白飯…………… 茶わん軽く2膳分
- 卵…………… 1個
- 納豆…………… 1パック
- ナガイモ…………… 3cm幅
- カリカリ梅…………… 6個
- 青ネギ…………… 適宜
- 塩、こしょう…………… 少々
- しょうゆ…………… 小さじ1
- サラダ油…………… 大さじ1と1/2

作り方

- (1) ナガイモは3cm幅のさいの目切り、青ネギは小口切りにする。カリカリ梅は種を取り除き細かく切っておく。
- (2) ボウルに卵を割りかき混ぜ、白飯を入れよく混ぜ合わせる。
- (3) テフロン加工のフライパンにサラダ油を熱し、(2)を入れ強火でパラパラになるまで炒める。
- (4) (3)にナガイモ、カリカリ梅を入れ塩、こしょうをして混ぜながら軽く炒め、最後に納豆を入れフライパンの周りにしょうゆを入れサッと混ぜる。
- (5) 器に(4)のチャーハンを盛り付け、青ネギを散らし出庫上がり。

知りタイガーのJA虎の巻



第29回
JA全国大会決議
JAグループの実践

【今回のテーマ】

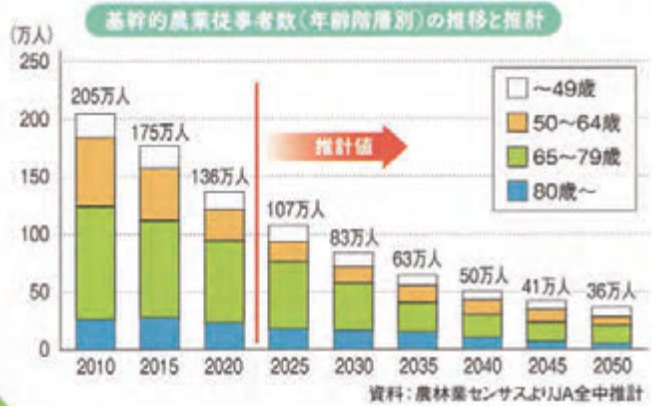
全国のJAで「次世代総点検運動」がスタートしているね。私たちの身近な食と農を未来につなぐとても大事な運動みたい。どんな取り組みなの？

いま地域農業は、世代交代期にあり、地域農業を支える次世代の担い手を育成・確保していくことが課題です。



「次世代総点検運動」は、組合員とJA役職員が、共に地域農業の現状や将来を見通し、農業生産を維持していくために必要な次世代組合員数の目標等を設定し、その実現に向けた具体策(事業承継支援や新規就農者支援など)を策定する取り組みです。

JAグループは次世代組合員を戦略的に支援することで、持続可能な食と農の実現を目指します。



耕そう、大地と地域のみらい。